

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-51C	16-068	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Informing etiologic research priorities for squamous cell esophageal cancer in Africa: A review of setting-specific exposures to known and putative risk factors. アフリカにおける食道がん (扁平上皮がん) の曝露要因について</p>		
執筆者		
<p>McCormack VA, Menya D, Munishi MO, Dzamalala C, Gasmelseed N, Leon Roux M, Assefa M, Osano O, Watts M, Mwasamwaja AO, Mmbaga BT, Murphy G, Abnet CC, Dawsey SM, Schüz J.</p>		
掲載誌		
<p>Int J Cancer. 2017 Jan 15;140(2):259-271. doi: 10.1002/ijc.30292. Review.</p>		
キーワード		PMID
<p>アルコール 食道がん 曝露要因 アフリカ</p>		27466161
要 旨		
<p>目的： 食道がん (扁平上皮がん) は東・南アフリカでも頻度が多く、南スーダンから南アフリカ共和国の東海岸までの地帯の有病率が高い。しかし、アフリカでの病因解明はすすんでいない。これまでに世界的に明らかにされた食道がんの曝露要因に関するアフリカでの研究結果をまとめた。</p>		
<p>方法： アフリカにおける食道がん (扁平上皮がん) についての記述疫学研究の結果をまとめた。有病率は 2012 年 IARC-GLOBOCAN 食道がん研究と CI5 研究を、候補となる曝露要因のリスクは既存の 14 件の症例対照研究をまとめた。</p>		
<p>結果： 喫煙、飲酒、熱い飲料、ニトロソアミン、多環芳香族炭化水素など、これまでに世界の研究で明らかにされた曝露要因は、アフリカにおいても食道がんのリスク要因であった。また、食道がんの有病率の高い南スーダンから東海岸にかけての地帯は、文化の違いによって曝露要因の頻度が大きく異なった。</p>		
<p>結論： これまでの研究から明らかにされた曝露要因について警鐘するとともに、一次予防戦略を練ることが望ましい。</p>		